

オールバーズ 2022年 「サステナビリティレポート」



allbirds

できるだけシンプルな報告をします

このレポートで、オールバーズの2022年におけるサステナビリティ計画の進捗状況をみなさんと共有します。

2020年度のサステナビリティレポートでは、2025年までに製品毎のカーボンフットプリント*を半減し、さらに2030年までには限りなく「ゼロ」まで減らすという目標を掲げました。

2022年、オールバーズは製品毎のカーボンフットプリントを1.64kgCO₂e削減しました。これは前年比19%削減で、5年計画における、最も大きな単年削減率になると予測しています。

この削減に貢献した要因は、再生可能素材の使用率増加(3%)、フットウェアパッケージングの改良(1%)、より広範囲での再生可能エネルギーの使用(2%)、海上輸送の増加(8%)、そしてウール素材フットウェアの減少(5%)などが挙げられます。

あらゆる努力の結果、2020年に掲げた5年計画をわずか2年で60%以上達成することができました。

(驚くべき成果だと、私たちは実感しています)

*カーボンフットプリント：素材・生産・輸送・使用・廃棄にいたる、製品とサービスのライフサイクルを通じて排出する温室効果ガスを二酸化炭素に換算した数値のこと。

チャートで 分かりやすく



「一般的」な
スニーカー

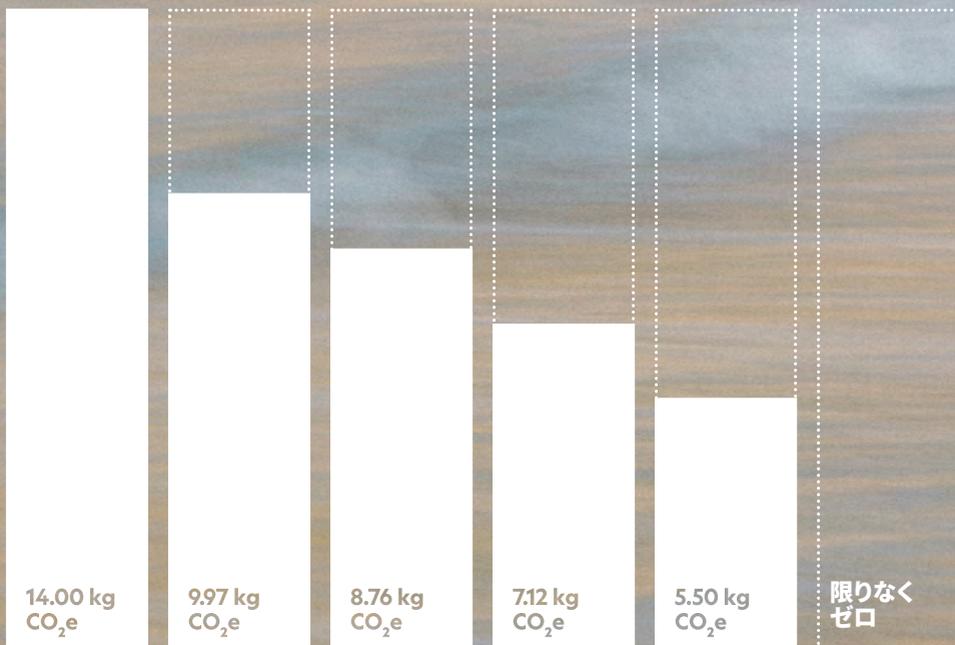
2020年

2021年

2022年

2025年

2030年



これらの数値は事業運営に関する排出量（店舗、オフィス、従業員の出張など）を除いた、製品の平均カーボンフットプリントを表しています。

2030年までに全製品の
平均カーボンフットプリントを
1kg CO₂e以下にします

前向きに 「ゼロ」にする

2022
SUSTAINABILITY
REPORT

前向きに 「ゼロ」にする

簡潔に言うと、オールバーズのビジネス目標は私たちのカーボンフットプリントをゼロにすることです。私たちが心がけていることは「前向きにゼロにすること」なのだとも言えるかもしれません。

繰り返しのようになってしまいますが、私たちの目標を共有し続けることが大切だと考えているので、再びお伝えします。2020年のサステナビリティレポートでは2025年の終わりまでにカーボンフットプリントを半減し、2030年までには限りなくゼロを達成する計画を宣言し、その道筋を明確にしました。

そして嬉しいことに私たちは予想以上のペースで成果を上げています。2022年には前年比19%削減を達成し、これはサステナビリティ計画の5年間における、単年で最も大きな削減率になると予測されています！

しかし継続的なカーボン削減に関わる取り組みや手法、つまり「前向きにゼロにすること」は非常に価値のあることですが、地味な話

題です。ニュースで報じられたり、ソーシャルメディア上でバズることはあまりないでしょう。

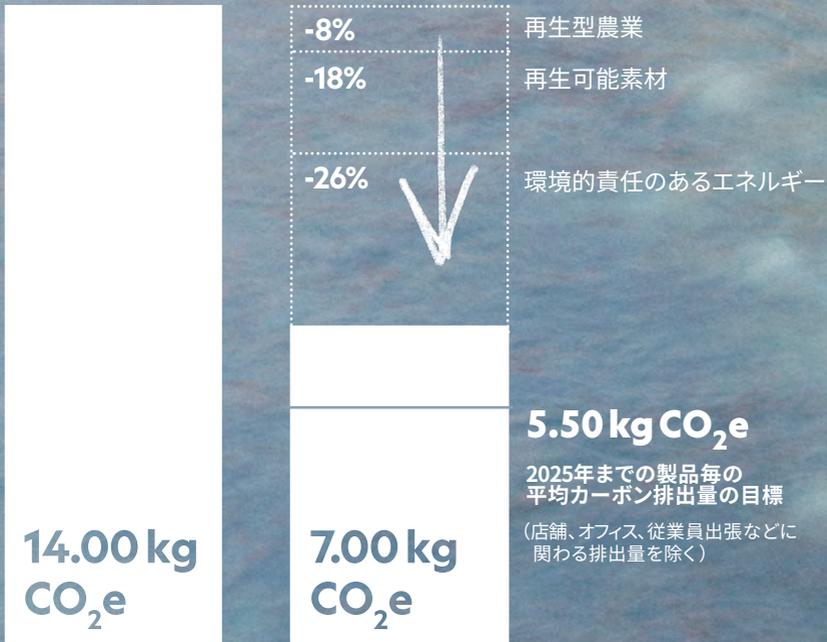
それは良いことだと私たちは捉えています。なぜならオールバーズの目的は華やかな注目やエンターテインメント性ではなく、科学的根拠に基づいた短期目標に向けて約束通りの取り組みを続けることだからです。2022年には先ほどの19%減を成し遂げるために27の異なる目標を達成しました。小さなステップの積み重ねでこそ、大きな目標を達成できると私たちは信じています。

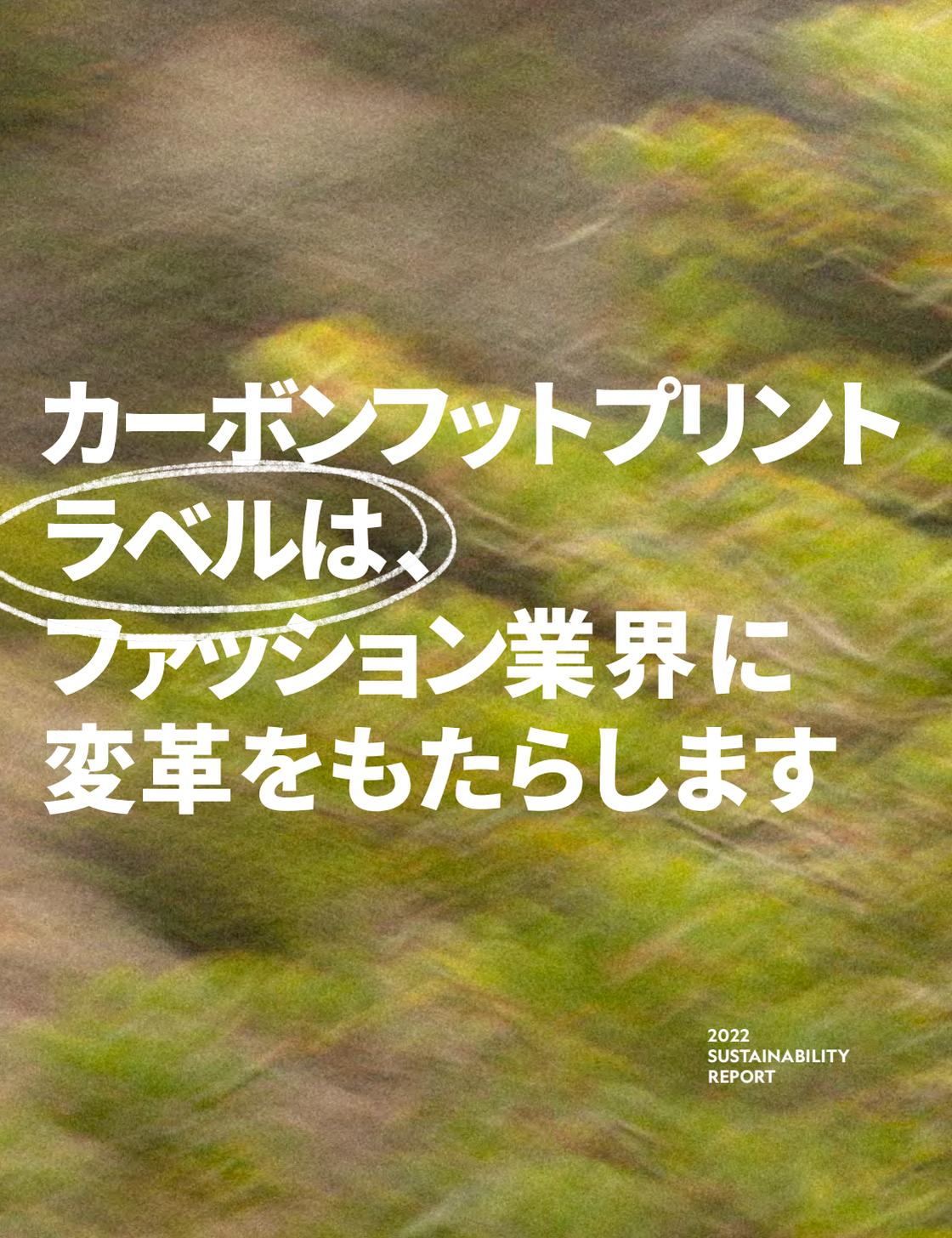
そして今年も無事にオールバーズのサステナビリティレポートをリリースし、サステナビリティに関するポジティブな経過報告をすることができました。

繰り返し宣言します： 2025年までに 製品毎のカーボンフットプリントを 半減させます。

従来のビジネスでの
排出量

サステナビリティ戦略を
実行した場合





カーボンフットプリント
ラベルは、
ファッション業界に
変革をもたらします

2022
SUSTAINABILITY
REPORT

カーボンフットプリントラベルは、ファッション業界に変革をもたらします

オールバーズはカーボンフットプリントを明確にしています。お買い物をするとき、タグには製品価格が明記されていますよね？しかしその製品が地球に与えている影響については、残念ながら把握できません。そこでオールバーズは2020年から全製品のカーボンフットプリントをラベルに明記することを開始しました。同時にオールバーズ独自のライフサイクルアセスメントをオープンソース化し、すべてのファッションブランドが参加できるようにしました。例えば日本のファッションブランド、カポックノットさんはすぐに呼びかけに応じてくれました。

ファッション業界全体が参加できるようにした理由は、私たちの製品だけがカーボンフットプリントを記載していても、その数値の持つ意味が伝わりにくいからです。他に比較する製品がなければ、自分の選択が環境にどのような影響を与えているか把握することはできません。

「その数値はどのような意味を示しているのか?」、「適切なカーボンフットプリントとは?」、「なぜそこまで重要なのか?」など、さまざまな疑問があるでしょう。複雑であることは間違いないので、計画や進捗についてなるべく分かりやすく説明することを心掛けます。

1. このラベルの数値を限りなくゼロに近づける必要があります。
2. 2030年までに「ゼロ」を達成する計画を立てました。
3. そして当初の予測よりも早いペースで目標に近づいています。



再生型農業

2022
SUSTAINABILITY
REPORT

再生型農業

二酸化炭素を削減する 農業への転換

ファッション業界において天然素材の使用率を増加させ、化石燃料の使用を無くすことが使命です。目標達成するために欠かせないパートナーは、羊です。羊は環境に負荷を与える温室効果ガスのメタンを排出します。そして彼らは生息するために広大な土地を必要とします。その土地をうまく利用すれば、気候変動を逆転させるための大切な手段になりえるのです。

2025年までの目標

- 再生型農業によって調達されたウールを100%使用
- ウール調達による二酸化炭素の年間排出量を100%削減または隔離する

2022年までの経過

2022年における製品毎の全体削減量である-1.64kgCO₂eのうち、再生型農業は0.00kgCO₂eになります。



主な成果

ニュージーランド・メリノカンパニー、 メイド・フォー・グッドとパートナー契約締結

メイド・フォー・グッドは契約農家のネット排出量のデータを計測しています。その情報を元に今後はどの分野で、どのように排出量を削減できるかを把握できるようになります。

再生型農業によって調達されたウールを より多くの製品に使用

2022年の冬にオールバーズはZQRX再生型農業ウールを使用した2種類のシューズ、そしてニット帽とスカーフを含むRegen Wool Collection をリリースしました。さらに2023年にはSuperLight Collectionなどの新しいスタイルにもこの素材を使用しています。

主な課題

変化を生むには時間が掛かります (現在のところは)

2021年度と同様ですが、再生型農業の貢献度が少なかったとはいえ、決して進歩が無かったということではありません。そもそも健康な土壌づくりには年月が掛かります。そして再生型農業は現代においても新しい取り組みです。よって最初の土台作りが必要で、継続することが大切なのです。私たちはニュージーランドの農地の15%を占めるZQRX農家コミュニティをサポートできることを誇りに思っています。近い将来これらの土地が再生型農地に転換できた時に、私たちの努力が報われるでしょう。

再生可能素材

2022
SUSTAINABILITY
REPORT

再生可能素材

化石燃料由来の素材を、 天然素材・リサイクル素材に 置き換える

残念なことに私たちの業界で使用されている素材の約60%が合成素材です。その合成素材の多くは、私たちが解決しようとしている気候変動を悪化させている、化石燃料由来なのです。私たちはそれに対抗するため、再生可能素材を積極的に活用しています。

2025年までの目標

- サステナブルな手法で調達された天然素材・リサイクル素材を75%使用
- 原料のカーボンフットプリントを25%減らす
- フットウェア及びアパレル製品の原料の使用量を25%減らす
- フットウェア及びアパレル製品の製品寿命を2倍に延ばす

2022年までの経過

2022年における製品毎の全体削減量である1.64kgCO₂eのうち、再生可能素材は-0.25kgCO₂eになります。



主な成果

- ツリーシューズのソックライナーを改良
- ウールシューズで使用する素材をリサイクルナイロンへ転換
- フットウェアのパッケージングをアップデート

パッケージングの軽量化による、輸送関連のカーボンフットプリントの削減方法を模索し続けています。そこでダンボール製のシューキーパーの代わりに、より軽量のティッシュペーパー素材を使用することで軽量化に成功しました。

主な課題

画期的で、よりサステナブルな素材の可能性

画期的な天然素材を開発し、従来の化石燃料ベース合成素材から置き換えるためには、依然として多くの課題があります。そのひとつは、これらのサステナブル素材の需要と供給のバランスが安定しないこと。そして手元にあっても工場はそれらの素材の扱いに慣れていないため、製造プロセスに時間を要することなどです。それでも私たちは課題を乗り越え、サステナブル素材のポテンシャルを信じて、解決策を探し続ける姿勢を貫きます。

環境的責任 のあるエネルギー

2022
SUSTAINABILITY
REPORT

環境的責任のあるエネルギー

エネルギー消費量を減らしつつ、 環境に配慮された燃料や 電気を使う

私たちのカーボンフットプリントの大部分は様々な用途で消費するエネルギーによるものです。具体的には素材加工とシューズの製造、船や飛行機、電車、トラックでの輸送燃料、そしてお客様が洗濯する際に消費する電力を含みます。これらのエネルギーを減らすことも、私たちにとって重要な目標なのです

2025年までの目標

「所有及び運用」：オールバーズが「所有及び運用」している施設で100%再生可能エネルギーを使用

製造：T1工場*で100%再生可能エネルギーを使用 (*Tier1主要工場)

輸送：海上輸送の割合を95%以上で維持する

お客様による使用：アパレル製品の常温洗濯と自然乾燥を促す

2022年までの経過

2022年における製品毎の全体削減量である1.64kgCO₂eのうち、環境的責任あるエネルギーは0.93kgCO₂eになります。



主な成果

- 海上輸送の割合を96%に
- ベトナムと積極的なエネルギー開発における共同声明を発表
- オールバーズの再生可能エネルギーアプローチを中国の施設でも採用

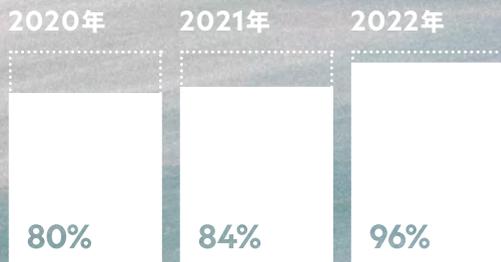
ベトナムでは2021年から再生可能エネルギーへの転換を開始しましたが、ゴムやフォームなどの製造は中国で行われています。2022年度の取り組みでは中国における再生可能エネルギークレジットの取得に焦点を当て、サプライチェーンに関わる環境的責任あるエネルギーの利用を拡大させました。

主な課題

再生可能エネルギークレジット (REC) における課題

現時点でオールバーズの工場は自社所有ではありません。事業に要するエネルギーも世界各地で消費されているため、RECは重要なツールなのです。しかし韓国のようにREC購入に対して政府が規制をかけている場合は、クレジットを購入することができていません。

海上輸送の割合 (重量毎によるインバウンド物流)



ほとんどの場合、オールバーズのような新しい企業は、消費者のニーズに迅速に対応するため、より速く届く空輸の方が一般的です。

カーボン オフセット



2022
SUSTAINABILITY
REPORT

カーボンオフセット

二酸化炭素排出に対して責任を持つ

オールバーズの目標はカーボンフットプリントをゼロにすることです。その過程で環境に与える影響に対して、私たち自身だけでなく全ての事業者が責任を持つべきというのが私たちの考えです。

カーボンオフセットによって企業も（個人も）二酸化炭素の排出を軽減、もしくは「ニュートラル化」する取り組みに投資することができます。しかしオフセットについては、「企業が環境汚染をする権利を金で買う仕組みである」と異議を唱える声もあります。そのような意見に一理ありますが、そもそも現在の状況に陥っている原因の一つは、多くの企業がこれまで自由に環境汚染を続けてきたからなのです。

排出量を限りなくゼロにする過程で、現段階の二酸化炭素排出量をオフセットするという選択に、私たちは誇りを持っています。2022年には以下のプロジェクトに参加してオフセットに取り組みました。



エンピラ・アマゾン・プロジェクト

このプロジェクトの目的は、絶滅危機にある約20万ヘクタールのブラジルの熱帯雨林を保全することです。オールバーズはエンピラ・アマゾン・プロジェクトと提携し、コミュニティへの資金投資を通じて支援しています。ブラジルの熱帯雨林は200万種以上の動物の生息地であり、生物多様性の観点のみならず、二酸化炭素の吸収源として重要な役割を担っています。



アルゼンチン再生型農業ウールプロジェクト

このプロジェクトの目的は、アルゼンチンの牧羊地の土壌を豊かにすることです。オールバーズは、農家が土壌の健全性を加速・改善するために必要なステップを踏めるように、再生型農業ウールへの継続的な資金投資をしています。プロジェクトのフェーズ1では、30年間の運用期間中に100,000トンのカーボンフットプリント削減が期待されています。



渡部暁斗選手との取り組み

ノルディックスキー複合の渡部暁斗選手が移動・宿泊などにおいて排出するカーボンフットプリント（70トン/年）を、彼の地元である長野県の森林活動を通じてカーボンオフセットを行いました。自然環境と密接に結びつくウィンタースポーツのトップアスリートであり、オールバーズのアンバサダーでもある渡部選手と、一緒に気候変動へ立ち向かっていけることを誇りに思います。

カーボンは 問題の一部

2022
SUSTAINABILITY
REPORT

カーボンは問題の一部

本レポートはここまで二酸化炭素を減らす目標に焦点を当ててきました。カーボンフットプリント削減は、私たちの取り組みの指標ですが、本当の意味でのサステナビリティを実現するには、他にも多くのことを考慮する必要があります。気候関連の目標とは別に、私たちはさらなるサステナビリティ計画のコミットメントを次の5つの主要エリアに分けています：公正な労働、水、化学物質、動物福祉、トレーサビリティ。

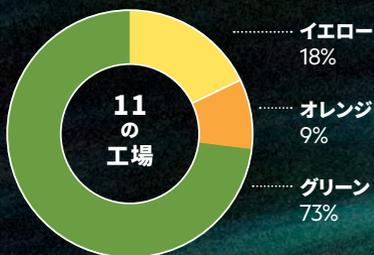
主な成果

工場から効果的な監査データを取得

2022年には第三者監査プログラムを通じて、T1工場から総合的なパフォーマンスデータを初めて得ることができました。監査から得られる情報は断片的なものです。私たちの社会的責任プログラムにとって重要

な作業だと考えています。それらの情報に基づいて業界全体と比較したリスクの特定、進捗状況の把握、そしてパフォーマンスの基準化を図ることができるからです。同時に根本的な原因を検証し、継続的な改善が可能となります。今後はこれらの指標に加えた改善について毎年発表していきます。

工場のリスク評価



グリーン：素晴らしいパフォーマンス

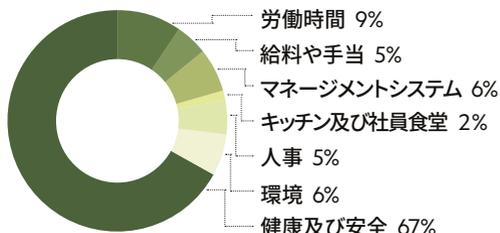
イエロー：良いパフォーマンスだが改善の余地あり

オレンジ：製造のためには短期的な改善を要する

レッド：製造認証を得られない状態

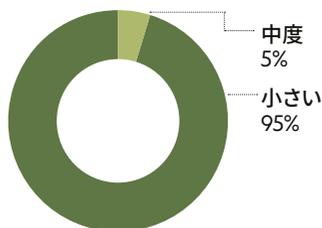
現在は「オレンジ」評価の工場と改善策に取り組んでいます。

カテゴリー別の改善点の割合



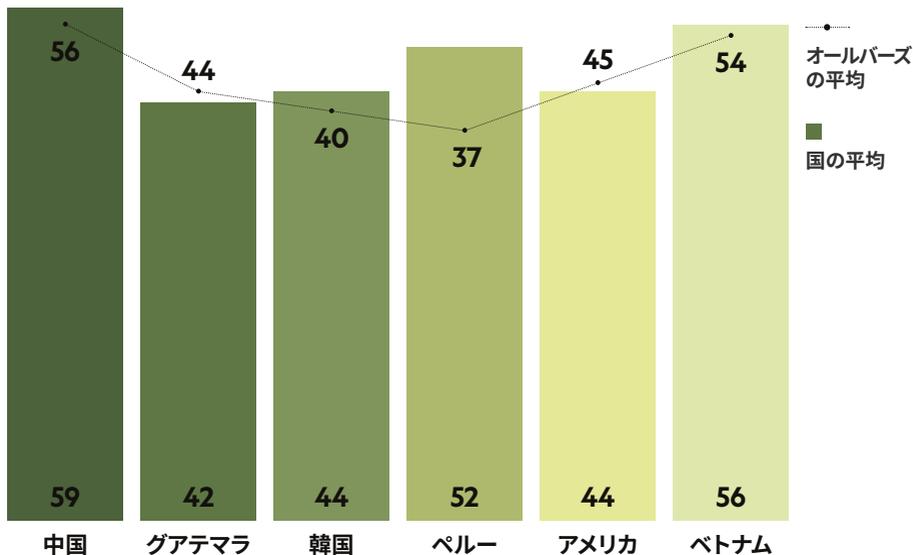
「健康及び安全」に含まれるものとしては適切なPPE (個人防護具)、サイネージ、照明、非常口などです。

健康及び安全のリスク評価



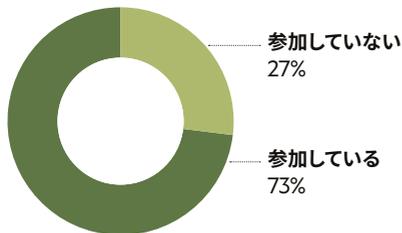
健康及び安全におけるリスクの大部分は小さいものでした。

国別の工場における労働時間



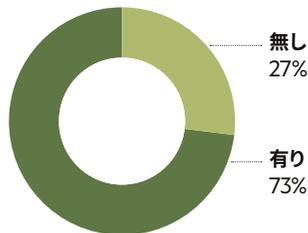
工場は自社所有ではないため労働時間のコントロールが難しいですが、労働時間を把握し、給料が期限通りに支払われ、労働を強いられないことを確認しています。

オールバーズの匿名従業員意識調査に参加している工場



私たちは監査の際に匿名の従業員調査を行っており、目標は100%を達成することです。

労働者支援プログラムのある工場



労働者支援プログラムには託児施設や通勤手段、健康管理、教育用奨学金、金融サービスへのアクセスなどが含まれます。

施設や従業員についての情報をより多く共有しています

2022年にT1工場リストを初めて公表し、同年度では11の工場が6カ国で運営されました。これらの施設における労働力についても詳しい情報を共有し始めました。例えば総従業員数は22,800人で、そのうちの71%は女性が占めています。その他の提携工場の82%は社会的もしくは環境認証制度を追加で受けており、それぞれの所在地域の法律や業界基準を上回る形で運営されています。

11

6カ国で11の工場を運営

22,800

T1工場における総従業員数

71%

T1工場における女性の割合

82%

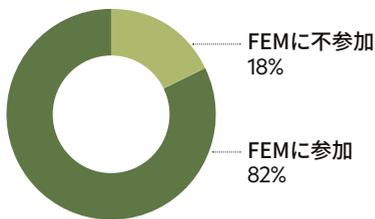
所在地域の法律や業界基準を上回り、社会的もしくは環境認証を受けている提携工場の割合

工場における環境プログラムは より包括的になりました

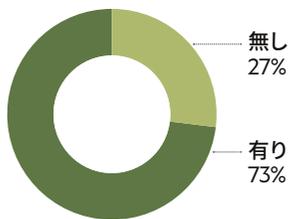
2022年には95%の製造割合を占める、9つのT1工場で環境保全進歩を把握する、Higg Facility Environmental Module (FEM)が採用されました。FEMを活用して、データ収集、リスクや機会の特定、そしてエネルギーや水、廃水、大気排出量、廃棄物、化学成分、そして環境管理システムなどに工場が与える

影響を継続的に改善していきます。2025年までには全T1工場、及び戦略的に重要なT2工場にHigg FEMの採用を実現させる取り組みを行なっています。加えてより包括的な規制物質リスト (RSL) 及び化学成分に関するコンプライアンスプログラムを私たちのサプライヤーに提供し、73%のT1工場が年度末までに環境もしくは化学関連の認証を受けました。

HIGG FEMに参加している
T1工場の割合



環境または化学関連認証を受けている
T1工場の割合



主な課題

同じ志を持つ仲間と、 より革新的な成果を上げます

オールバーズは大規模工場で製品を製造しています。ブランドとしてはまだ小規模ですが野心は大きい! 革新的な変化を生み出すためにも、今後も私たちと同じ志を持つブランドとパートナーシップを組む機会をうかがい続けていくつもりです。



「ゼロ」は 実現可能です

2022
SUSTAINABILITY
REPORT

「ゼロ」は実現可能です

2022年は大きな成果を収めることができました。レポートの冒頭でも発表したように、この一年で達成した製品毎のカーボンフットプリント19%削減はサステナビリティ計画において、単年で最も大きい削減量になると思われま。そしてもっと重要なのは、カーボンフットプリントを半減するという2025年の目標までの達成率が既に半分以上を超えたことです。5年計画の2年目で、60%以上の進捗状況です。この結果は環境にとって大きな手助けとなっただけでなく、コストを抑えることにも貢献しています。

2023年は製品毎のカーボンフットプリントを半減させるという目標が達成間近となっています。なぜそれが分かるか？というと、実はすでに実現しているからです。

2023年の3月に、「M0.ONSHOT」という、世界初のネット・ゼロカーボンのシューズの開発を発表しました。そしてこのシューズの0.0kgCO₂eカーボンフットプリント（一般的なスニーカーは14kgCO₂e）はカーボンオフセットに頼らず達成される予定です。「M0.ONSHOT」のネット・ゼロを実現するためにはSuperLight Foam（80%バイオ由来かつサトウキビ由来

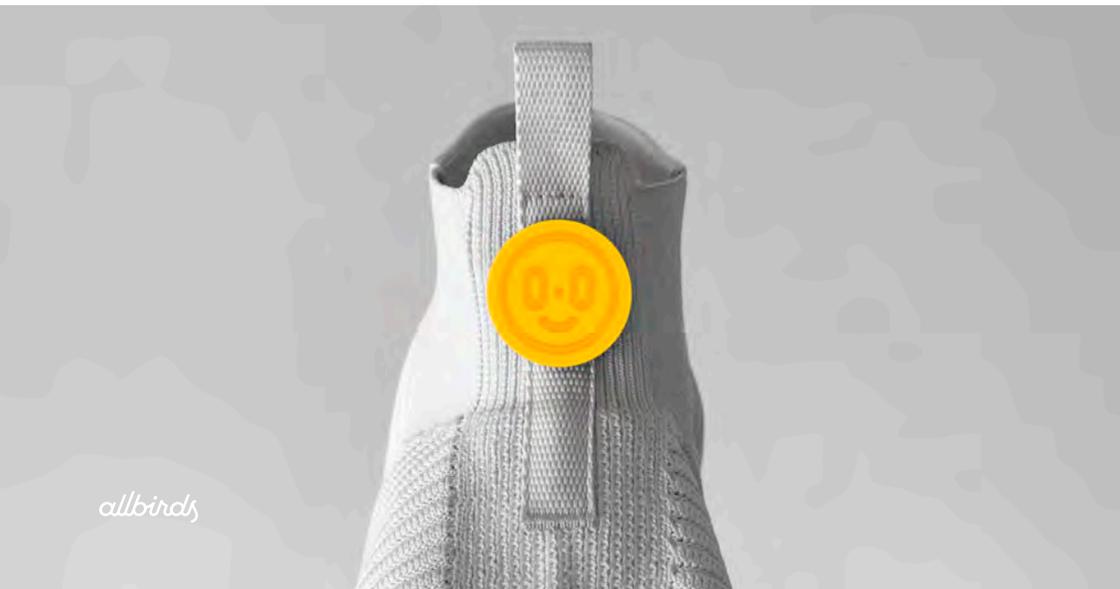
のカーボンネガティブEVAミッドソール）、再生型農業ウールそしてメタンを変換して微生物によって作られたカーボンネガティブなバイオプラスチックなどのサステナブルな技術を使用します。カーボン排出を最も効果的に抑えたパッケージングを使った製品を、バイオ燃料による海上輸送や電気自動トラックで輸送するなど、輸送手段も徹底されています。このプロジェクトについてはこちら*を参照してください。

* <https://www.allbirds.jp/pages/moonshot-zero-carbon-shoes/>



「M0.0NSHOT」のネット・ゼロフットプリントを実現するカーボン削減ツールは、他製品への展開を開始し、ビジネスの様々な分野においても活用する予定です。私たちの期待は、この手法がファッション業界全体に浸透することです。よってこの製品のパーツに関するツールキットもオープンソース化することを決めています。

2022年を経て2023年に入り、私たちが得たものは大きな達成感と期待感です。そして今、自分たちが定めた目標を達成する意欲に今まで以上に満ち溢れています。ゼロを実現するまで、私たちは走り続けます。



私たちのカーボンフットプリントは？

気候変動に立ち向かうためには、皆が責任を持って行動する必要があります。
わたしたちが環境に与える影響を把握するために、全ての商品にカーボンフットプリント
(温室効果ガス排出量)を明記することがその第一歩だと認識しました。

CARBON FOOTPRINT
+
2.9
KG CO₂e



TREE BREEZER

MATERIALS (素材)	+1.8 kg CO ₂ e
MANUFACTURING (製造)	+0.4 kg CO ₂ e
TRANSPORTATION (輸送)	+0.4 kg CO ₂ e
USE (洗濯)	+0.0 kg CO ₂ e
END OF LIFE (廃棄)	+0.3 kg CO ₂ e
TOTAL (総量)	+2.9 kg CO₂e

CARBON FOOTPRINT
+
6.1
KG CO₂e



TREE DASHER 2

MATERIALS (素材)	+3.7 kg CO ₂ e
MANUFACTURING (製造)	+0.3 kg CO ₂ e
TRANSPORTATION (輸送)	+1.2 kg CO ₂ e
USE (洗濯)	+0.1 kg CO ₂ e
END OF LIFE (廃棄)	+0.8 kg CO ₂ e
TOTAL (総量)	+6.1 kg CO₂e

CARBON FOOTPRINT
+
5.1
KG CO₂e



TREE RUNNER

MATERIALS (素材)	+3.0 kg CO ₂ e
MANUFACTURING (製造)	+0.3 kg CO ₂ e
TRANSPORTATION (輸送)	+1.0 kg CO ₂ e
USE (洗濯)	+0.1 kg CO ₂ e
END OF LIFE (廃棄)	+0.7 kg CO ₂ e
TOTAL (総量)	+5.1 kg CO₂e

CARBON FOOTPRINT
+
8.0
KG CO₂e



WOOL RUNNER

MATERIALS (素材)	+5.4 kg CO ₂ e
MANUFACTURING (製造)	+0.9 kg CO ₂ e
TRANSPORTATION (輸送)	+0.9 kg CO ₂ e
USE (洗濯)	+0.1 kg CO ₂ e
END OF LIFE (廃棄)	+0.7 kg CO ₂ e
TOTAL (総量)	+8.0 kg CO₂e

一般的なシューズは14.0kgCO₂e、オールパズは平均7.1kg CO₂eのカーボンフットプリントとなります。
(7.1kgCO₂eは、一般的な自動車で28km走行、スマートフォンの充電900回分に相当)

allbirds